酒田・鮭海米づくり情報

第 16 号

令和６年 10 月１日発行

秋耕編

酒田農業技術普及課
酒田市若浜町１－40
TEL 0234-22-6521
FAX 0234-22-6522

今年の「ひこばえ」は今年のうちに対策！

令和７年の栽培に向けて、早めの田ワキ対策を！

１早めの秋耕で有機物の分解を促進！ 気温が高い今がチャンス！

写真１ 「ひこばえ」の様子（R6.9.30 遊佐町）

稲刈りが早く終了した圃場では、「ひこばえ」がかなり大きくなっています（写真１）。例年より多い「ひこばえ＝有機物」が春先にすき込まれると、ワキが激しくなる恐れがあります。

稲ワラ等の有機物が分解されるには、土壌に適度な水分があり、一日の平均気温が 10℃以上あることが必要です。10 月中に早めの秋耕を実施し、有機物の分解を促進しましょう。有機物の分解促進には「ケイカル」や「ようりん」、「石灰窒素」等のアルカリ資材の施用も有効です。

２ スタブルカルチによる粗耕起 ～秋施工で稲わら腐熟を促進！～

写真2 スタブルカルチ秋施工の様子
（6 本爪 作業幅 190 cm 45～60PS 用）

スタブルカルチの“爪”によって作土層と硬盤層の間に形成される、根が張りにくい硬い層（ネリネリ層）を削り取り、作土層を拡大します。根の伸長を促進し、初期生育の確保、登熟や収量の向上といった効果が期待されます。

スタブルカルチを秋に施工することで、稲わら腐熟を促進する効果も期待されます。ロータリー耕での秋耕に比べ作業スピードが速いため、降雨の合間にどんどん作業を進めることができます。

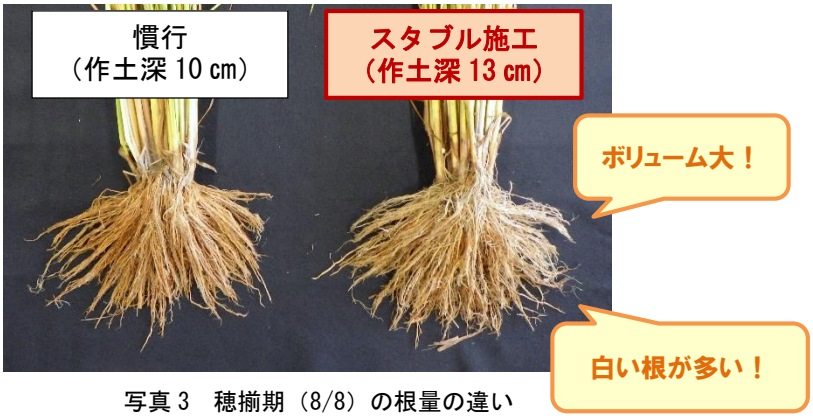

写真３ 穂揃期（8/8）の根量の違い
（R6「はえぬき」スタブルカルチ実証圃：遊佐町大蕨岡）

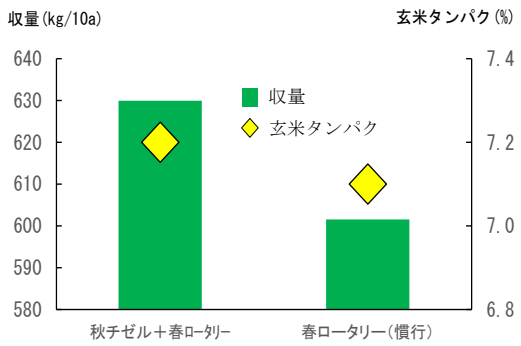

図１ 収量と玄米タンパク
（R4「雪若丸」実証圃：鶴岡市長沼）